

質問

スキルス胃がんは、進行が早く怖いがんと聞きました。普通の胃がんとどのように違うのでしょうか。また、遺伝するものなのでしょうか。

スキルス胃がんの特徴は



吉川 幸造
徳島大学病院
消化器外科病棟医長

回答

胃がんは日本のがん死亡原因の第2位で、そのうち10%がスキルス胃がんです。スキルス胃がんは50歳以下の若い女性に多い傾向があり、胃がんの中で最も悪性度が高いものです。

理由としては①発見されにくいこと②転移しやすいこと③の二つが挙げられます。それぞれについて説明します。

まず、発見されにくい原因です。通常の胃がんは粘膜から発生し、隆起しながら粘膜下層、筋層、漿膜と浸潤していきますが、スキルス胃がんは粘膜の下をほうようにして広がるために胃炎や

発見は困難 転移も早く



胃潰瘍のような症状が出てくるのです。そのため相当進行してから発見され

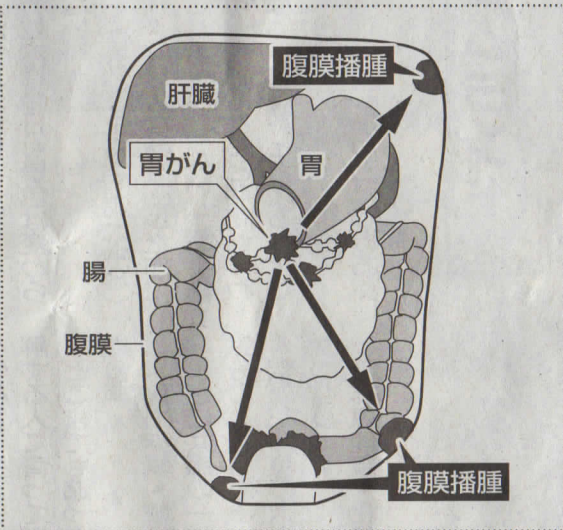
れます。次に転移しやすい原因ですが、早期に腹膜播種を起すことです。腹膜播種とは、がんが進行して胃の壁を突き破り、がん細胞が散らばった状態のことです。おなか全体にがん細胞が散らばってしまうので、治療が困難になります。スキルス胃がんの治療ですが、腹膜播種がない

場合には胃を切除します。がんの広がりが分かりにくいので、胃を全部摘出する必要があります。また再発の危険性が高いことから術後に抗がん剤治療が必要になることが多いです。

播種が認められた場合には、おなかに広がったがんをすべて摘出することは不可能であるため、抗がん剤治療となります。徳島大学病院消化器外科ではこの腹膜播種に対して、おなかに直接抗がん剤を投与する先進治療を行っています。

遺伝に関してはさまざまな報告がありますが、現在のところはっきりとしたところはないのが現状です。何よりも早期発見が重要ですので、症状がなくても胃カメラや透視検査を受けることが重要です。(第4土曜掲載)

がんに関する質問は徳島がん対策センター(電話0888(6333)9438)(平日午前8時半から午後5時まで)にお寄せください。<http://www.toku-gantaisaku.jp/>でも受け付けます。



全摘か抗がん剤治療